

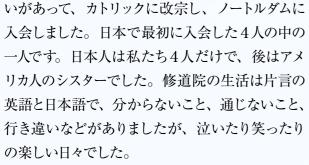
召命を振り返る

Reflections on One's vocation

第1節 シスターの想い (初誓願順 62名)

シスターメリー ジョセフ 續木

熱心な聖公会の信徒の家 庭で育ちましたが、スクート 会のスパー神父様との出会



誓願を立ててからは、中学、高校で音楽を教え、 のちに大学が創立されてからは、大学でも音楽を 教えました。

今、会の中で最高齢者となり、若い人たちに 手厚い介護をしていただいて、とても幸せで感謝 しています。

何もかも、すべて神様のお計らいでした。

(初誓願 1952) (文責 Sr. ポーラ)

シスターエリザベス マリー 石田

私はなぜ来日直後の SSNDのシスター方と出会っ たのか。当時私が東京八重



洲ホテルの食堂でウェイトレスとして働いていて、 メリノールの神父様方とお出会いしたことが全て の始まりです。

その頃八重洲ホテルは進駐軍将校・軍属の宿舎で、メリノールの神父様方も泊まっておられました。高校を卒業して仕事を探していた私は、「英語に触れられる職場」として八重洲ホテルの食堂で働くことを選んだのです。

神父様方との出会いでキリスト教に関心を持った私は、1947年12月に公教要理の勉強を始めました。銀座三越7階の「カトリックセンター」で行われていた要理教室に週2回、4か月通って3月末の復活祭に洗礼を受けました。その間に神父様方の生き方に憬れ、シスターたちの話も聞いて修道召命を感じ始めたのです。

その後マキロップ神父様が京都に転勤され、神父様を訪ねて京都に来たのがSSNDシスターズとの出会いのきっかけでした。メリノール会は養成がアメリカだということもあり、ノートルダム

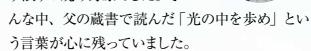
に決めて1949年の9月に入会しました。シスター 方は楽しく、一人ひとりが色合いの違う優しさで 関わってくださいました。

本会が日本に根を下ろしたときに入会し日本人の最初のグループの一員として誓願を立てた私は、会の成長発展に伴い、広く様々なところへ派遣され、多様な出会いと学びの機会に恵まれました。多くの方々が恵みのチャンネルになって下さいましたが、共同体メンバーの存在は大きいでした。自分には到底無理なことも、神さまは時に応じ、必要に応じてさせてくださいました。すべて、『神に感謝!』です。

(初誓願 1952)

シスターメリー アンシラ 坂口

1945年、東京はアメリカのB29による大空襲で見渡す限りの焼け野原でした。そ



その光を求めて、御殿山近くの教会を訪ねました。それはプロテスタントの教会でした。その後三井銀行本店に勤めましたが、そこで2~3人のカトリック信者の方に出会い、カトリック銀座教会に行くようになりました。教会は銀座4丁目の焼け跡に残った元三越デパートの7階にありました。そこでメリノール会のチベサ神父様と出会い、プロテスタントから改宗して、カトリックの洗礼を受けました。チベサ師はノートルダムの卒業生でした。

1948年に来日されたばかりのノートルダムのシスター方が銀座教会に立ち寄られたことがありました。私が修道女になりたい意向をお伝えすると、「京都に修道院があるから来なさい」と言われ、始めての京都へ行き、修道院を訪れました。

志願者のころチベサ神父様が修道院に来られたことがありました。志願者は外部の方と話してはいけない規則でしたが、神父様が志願者の部屋の窓の外を通られたとき、「もうお会いできない」と思い、神父様に声を掛けて修道名のことを尋ねました。神父様は一言『アンシラ』とおっしゃいました。『はしため』それが私の修道名の由来です。

その頃志願者は教会の日曜学校に派遣されていました。また、夕方5時には庭のマリア像の前に集まり七つの祈り(Seven Offerings)を英語で唱えました。楽しい思い出は『御殿』の小部屋のベランダで私たち志願者7人が並んでシスターメリージョゼフの指導で『ハレルヤ』などの聖歌を歌ったことです。グレゴリオ聖歌などの教会音楽はシスターメリーヘレンが、英語はシスターヴィヴィアンとシスターメリーが教えてくださいました。シスターメリーポーロはヴァイオリンの個人レッスンをなさりながら修道院の営繕も担当しておられました。私たちはシスターメリーポーロからロザリオ作りを教えていただき、シスターになったらシンクチュア(修道服の帯)に下げる大きなロザリオを作りました。

修道院の会計は、シスターユージニアがしておられましたが、シスターメリーポーロが引き継がれ、私もお手伝いをしました。

その頃、勉強をするシスターが増え、東京麻 布六本木に修道院が開設されました。フランシス

130

コ会日本語学校のすぐ近くでした。大学に通うシスター、日本語を学ぶミッショナリーのシスター たちもいました。他の修道会のシスター方も寄宿 しておられたので多人数でした。炊事は近所の方にお願いしていました。

(初誓願 1953)

シスターメリー ベネデッタ藤森

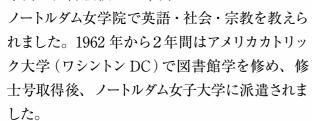
女学院の寄宿舎の舎監と して、思春期の若者たちに 出会ったこと、短期間であっ

たけど、韓国ミッションに派遣され異文化の世界を体験したことは、私のSSND人生の中で大きな位置を占めています。

(初誓願 1955) (文責 Sr. ピートラ)

シスターメリーマイクル 田代

シスターメリーマイクルは 1954年に入会、志願期の2 年間と初誓願後の5年間、



1977年に学校法人理事長及びノートルダム女

子大学第2代学長に着任、16年間務められましたが、この間、大学の入学定員倍増に伴う校舎増築工事、アメリカの姉妹大学及びレジス大学との交換留学制度確立、キリスト教文化研究所設立など、時代に合わせた大学の発展に貢献されました。

理事長・学長を退任後、刷新・研修の時を過ごし、中国の曲阜師範大学の客員教授として日本語を教える機会にも恵まれました。1997年からはメリーランド州トゥーソンにあるノートルダムプレップ高校で日本語を教えられ、京都のノートルダム女学院とプレップ校との交流の機会にも進んで協力をしてくださいました。2004年にアトランティック・ミッドウェスト管区に移籍され現在に至っています。シスターの温かく穏やかな人柄、他者への自然な心配りなどは今も変わることがありません。

(初誓願 1957) (文責 Sr. ジュディス)

シスターメリーイメルダ 野元

私が SSND のシスターと初めて出会ったのは、ノートルダム小学校開校の一か月ほど前だったでしょうか。



私は鹿児島で教会の幼稚園に勤めていましたが、姉がどこへ行っているのか、母も知らなかったので、京都で修道院の志願者になっていることに驚きました。その上、幼稚園の資格は持っていましたが、小学校の資格もないのに、小学校の先生として京都に来て欲しいとのこと。手紙を読みながら、どうして私が?と。姉は、私が小さ

い子どもが大好きだと知っていたのでしょう。でもなんとなく急いでいるようだったので、母と相談し、とにかく、一年生なら?と首をかしげながら返事をしたのを思い出します。母は、私がいつも母と一しょにいて、家から離れることがなかったので「行っておいで」と励ましたくれました。私はくわしいこともわからず少し心配でしたが…。

京都に着いてアメリカ人のシスターにお会いして、ドキドキしていたのをよく憶えています。英語はわからないし、話せないし、全く初めて小学校の先生になるなんて、…。背の高いシスターを見上げながらとても不安でしたが、お目にかかった校長様はゆったりとして、ほほえみながら私を迎えて下さいましたので何かほっとしたようです。

次の日から小学生を迎える準備が始まり、女学院の三教室をおかりすることになっていたようで、もう一人の日本人シスターと、志願者の姉と私と三人でクラスの準備、授業をどのように…など、仕事が始まりました。大好きな子どもたちとのかかわりを想像しながら。そして子どもたちを通して、又、シスター方とのかかわりから、神様は私をご自分の方へと引き寄せておられるのを感じるようになったのでしょうか?

(初誓願 1957)

シスターアンミリアム 木村

日々、体力の衰えを感じ る私に、新しい朝が訪れま す。それは私の中にまだ残

されているわずかな力と、決して衰えることのない希望を確認する時です。今日も何かができる、

感謝することができる、本が読める、共に楽しみ、 喜び合うことができる、祈ることができる、恵ま れた私の毎日です。

修道院で過ごした65年という時が、深い感動を与えています。召命に応え、恵みに満ちた修道生活を可能にすることができたという事実の真意を、やっと、少しずつ悟り始めているからです。

神の摂理という真理の中で私のすべてが、ノートルダム教育修道女会と、そこに関わりを持つすべての方々に、受け容れられてきました。

病弱や欠点も立誓願の妨げとされず、様々な形で学びの機会が与えられ、活動の場での自由な発想と試みが許されました。国を超えて多くのシスターたちとの交わりを体験し、持続してきた私は、心豊かにされました。

時として、反発を感じ、躓き、失意に陥ったという事実さえも無駄にはなりませんでした。共に生きる人々から受け容れられていることに気づき、自分も他者を受け容れることを学びました。神の愛を生きること、会憲で、繰り返し求められている「人々の中で証しとなる」ということは、これかなと思うのです。

(初誓願 1958) (2019.5.5 帰天)

シスターメリー アンブローズ 河瀬

仏教徒の都市、京都にミッショナリーとして来られた4 人のシスター方に心からの

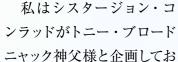


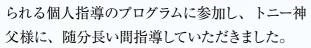
尊敬と感謝の心が沸き起こります。戦後、海を越 え、不便を忍びながらこの京都の地でミッション を始められたシスター方の惜しみない献身、勇気、 信仰の深さと強さに感動し、その生き方に惹かれ ました。神への強い信頼とご自分の信念を貫き通 されたその姿が今も心に強く刻まれています。シ スター方の生き方からたくさんのことを学ぶ毎日で した。特にシスターユージニアは生徒一人一人に 温かく大変親切に接しておられました。

また、最初に入会されたシスターメリーキャサ リン皆福の勇気にも感動します。ご苦労の多い 日々だったかと思われますが、言葉の壁を越えい つも明るく過ごされたシスターにも感謝したいと 思います。

(初誓願 1958) (文責 Sr. ジョアンナ)

田山





神父様は聖書を心で読み、祈り、味わうように指 に大変役立ちました。

シスターセリーン 松本

メリノール官教会のマキ ロップ。師のもと、高野教会 で公教要理を学び、1948年 12月24日、クリスマス・イヴ



に受洗、初聖体を受けました。25日の午後、神 父様がメリノール修道院でのベネディクションに 誘って下さったので、大喜びでジープに跳び乗り ました。聖堂に入り後方に座った時、真っ黒な4 つの山を見ました。

ベネディクションの後、馬小屋が作られた座敷 に通されて馬ぶねのイエスに祈っていると、後ろ に人の気配を感じました。振り向くと、驚いたこ とに、手、足は勿論、髪も見えない白黒の巨人 が立っていました。心臓が張り裂けるばかりのノー トルダム会の4名のシスターとの初対面でした。 来日され、鹿ケ谷に居を定めるまで、メリノール 修道院に寄留しておられたのです。

それから、毎朝、私は高野教会でミサに与り ました。ある時、25歳で自分自身を捧げ尽くした いという強い呼びかけを感じたのです。 私は神 のみ旨は何処にあるのか懸命に祈りました。神へ の献身の道か、或は、7歳の時父が死亡して以来、 手塩にかけて育ててくれた母の望む結婚への道 か。神の呼びかけは強く、私は1957年4月7日、 ノートルダム教育修道会に25歳で入会しました。

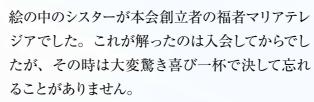
初誓願、再誓願の時も二つの道への迷いはあ りましたが、神の愛によって誓願生活を続ける恵 みを得ました。実際に、母は私が入会した時す でに、自分の個人的な望みを断念していたので しょう。終生誓願の前のこと、母が私を神に捧げ てくれると言ってくれました。

司式をしてくださるバルバロ神父様に、私自身 をパテナにのせて、奉納して下さるようおねがい し、遂に、私は 愛する主に自身を奉献すること が出来たのです。それから、早、60年の年月が 経ち、限りない神のはからいと愛の中に「今」生 かされていることの有難さを噛みしめています。

(初誓願 1959)

シスターメリークレア 小原

1954年復活祭に大津カト リック教会で洗礼を受けま した。受洗記念に戴いたご



本会を紹介して下さったのはメリノール会のオ ドノヒュ神父様です。又、メリノール会のシスター 方も教会で献身していらっしゃいました。その生 き方に心がうたれ入会の恵みを頂きました。

70 周年を振り返る時、召命の恵みを共に生き てきた共同体のシスター達から多くのことを学び、 そして愛され、ゆるしていただき、特に祈りで支 えられてきたことが沢山心によみがえって来ます。 今、感謝の心でいっぱいです。

又、修道会を通して学ぶ機会を与えられ、毎 年の黙想会にも恵まれて、霊的成長のため豊か にされながら歩めたことも喜びとなっております。

福者マリアテレジアのカリスマに生かされて、 導かれながら、教会と使徒職の場で多くの人々そ して子供たちと関わり繋がって奉献生活を歩めた ことは大きな喜びです。

この喜びと恵みは何にも変えられない70周年 の宝物です。

(初誓願 1960)

シスターモーリン 和田

私は、1958年2月2日に 入会しました。教育会であ ることや、創立者のことも全



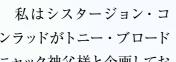
く知らず、ただ、聖母マリアの会に入りたいとい う望みと、家族のため京都に本部のある会に入 れと言う指導司祭の指示に従って導かれました。

国際会である本会に属することによって、コミュ ニティ生活を通して、使徒職を通して、想像でき ないほど多様で豊かな恵みを頂きました。中でも、 私にとっての最高の恵みは、「大黙想」(1970年) の機会を頂いたことです。そこで、初めて、救い 主イエス・キリストに出会い、何のため、誰のた めに生きているかを分からせて頂いたことです。 私をお呼び下さった「主である神」に、絶対の 信頼をかけて応えること。その恵みがもとになっ て、地区長に呼ばれたとき、ネパールミッション の識別の時、総評議員に呼ばれたとき、などなど、 震え慄きつつも、ただひたすらイエスを信じて未 知の深淵に飛び込む、信仰と信頼の行為を生き る恵みを頂きました。本会の寛大さ、多くの欠点 を持つ私を赦し、受け入れ、支えてくださるコミュ ニティのおかげと感謝しております。

奉献生活において、自分自身の罪深さ、神を 神とあがめぬ傲慢さを、日々感じるたびに、また、

134

シスターマリエッタ





導してくださいました。このやり方は私の心を落 ち着かせてくれました。このやり方のおかげで、 教会の方たちとの「聖書 100 週間」や「セブン ステップ法(効果的な問題解決) | を進めていくの

(初誓願 1959)

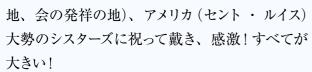
現在の使徒職における、自分の非力を痛感する たびに、へりくだって主なる神の憐れみと慈しみ に絶大な信頼をかける恵みを願い、み旨の行わ れる事を願って歩んでおります。

"神の慈しみは、永遠。神の慈しみに感謝と賛 美!"

(初誓願 1960)

シスターメリーアグネス 渡辺

1985年、誓願 25 周年、 ローマでの刷新プログラム: ドイツ (マザーテレジアの生



ノートルダム女子大学 1988年~1995年 1995年、生涯養成コースでフィリピン体験学習、 日本と違って貧しいのにびっくり。

1996年名古屋城北橋修道院。1年間キリスト教講座受講。「リーダー養成コース修了証」を頂く。

1999年城北橋教会退職と共に修道院閉鎖。 33年間続いた SSND の城北橋における奉仕に 終止符が打たれる。33年間に 31人の SSNDsが 奉仕。この出会いの中で、喜びも苦労もありまし た。神に感謝!

1999年、京都今海道町修道院に住み、ノートルダム学院小学校給食室勤務。

2000年誓願40周年、グループ4人で黙想と 巡礼に北海道へ。祈り一旅一大自然一天気一恵 2003年ノートルダム学院小学校退職、その後 パート職員、非常勤、嘱託として現在まで続け ています。

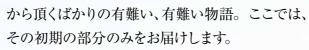
2010年、誓願 50 周年。誓願グループでセントルイス、ニューオリンズを訪問。シスターメリージャンにもお会いできて感謝。神からの光、恵み。 賛歌、喜び、聖霊の恵み。一人一人のシスターズに助けられて全て戴いたこと、神様の恵みに感謝しています。

イエス・キリストが一つにするために遣わされている様に、私もノートルダム教育修道女会会員としてその同じ使命に遣わされています。この恵みを生涯かけて生きられますように。共同体の生活を誇りに思います。グループに一生感謝します。福者マリアテレジア・マザーキャロラインの精神をもって、共同体を生きる恵みを願い求めます。

(初誓願 1960)

シスターメリー アントネット 近藤

メモを見ながら過去 61年 を振り返って A4の2ページ 半書いた。会を通して神様



1950. 8.14 北海道名寄カトリック教会で、Fr エンリコ・ゴッツイ OFM より受洗。

1958.4.7入会 入会の動機:

①名寄教会で接した OFM (フランシスコ会会員) 方の徹底した生き方と兄弟愛の模範。②親がキリスト教を理解できず、末っ子の自分に親を説得するだけの力がないので、自分の一生をもって親を説得したいと思ったこと。

1958 - 1959 志 願 期、1959 - 1960 修 練 期 於鹿ケ谷: Sメリージャン・ラコウスキー志願長・ 修練長

この時期の思い出:「あなたの信仰は何処にありますか?」「できますよ!」「祈りませんでしたら、恵みを頂きません」「…しても宜しい」「練習がいります」「集中を守ります」「常識を使いました」"be good!"以上は(Sメリージャン語録)/分刻みの時間割 忙しかった!音楽・聖書・英語・ラテン語の勉強、家事手伝い、裁縫、土曜学校(西陣教会)われら同期6人は、上下を有能多才なグループに挟まれて霞んでいた(?)おかげで生き延びられたのかも。今思うに、この時期は常識に基づいてではなく、信仰に基づいて生きることを、体験を通して覚えさせる時期ということかな。

着衣式には姉鶴子と甥三谷興基が、初誓願式 (1960.4.1.) には両親が出席してくれました。 神に感謝!

(初誓願 1960)